

令和5年

6月号

No.644

今月  
の  
ご法話

心  
ひ  
と  
つ

# 法音

日蓮宗  
法音寺



# 勇猛精進

堪忍

全てのことに「はい」と言おう

堪忍できる

全てのことに感謝しよう

堪忍できる

全てのことを喜ぼう

堪忍できる

続ければ仏になれる

## 月刊・法音 令和5年6月号 No.644 目次

【信仰の指針】不瞋ふじん 怒らないことは奇跡をもたらします 1  
【朝のこない夜はない】  
心ひとつ 山首 鈴木正修 2

- ◆ 講日のご案内 15
- ◆ 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください 16
- ◆ 御開山会のお知らせ 18
- ◆ 仏教漫画『日蓮さま』・⑭ 由比ヶ浜の別れ 19
- ◆ 由比ヶ浜の別れ 27
- ◆ お寺の本棚 28
- ◆ 常寂光土への誘い(11) 30
- ◆ 五十萬巻御報恩納経 妙法蓮華経 久遠偈 33
- ◆ やさしい仏教 34
- ◆ のりのね体験 36
- ◆ 浄心道場 38
- ◆ 支院だより 41
- ◆ 法音寺は「信仰と福祉のお寺」です 58
- ◆ 福祉のひろば 59
- ◆ 幸せのお手伝い 60
- 高浜安立荘アイサレセンター！高浜安立荘アイサレセンターがテレビで紹介 62
- 日本福祉大学・第40回開学記念式典を開催しました 64
- ◆ 賛助員ご芳名 66
- ◆ 幸せの種まき／編集後記 67
- ◆ 連載まんが・ひまわり・125 忘れかけてた届けもの 69
- ◆ 法音寺の社会福祉・教育事業 68

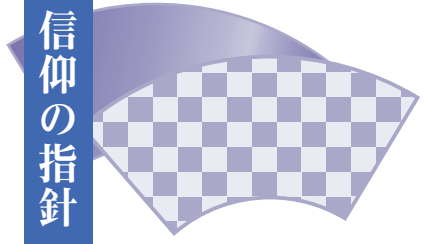
### 表紙題字 山首上人さま書

掲載写真 表紙・信仰の指針 3～15頁…梅田雅臣氏撮影

2頁…加納将人氏撮影

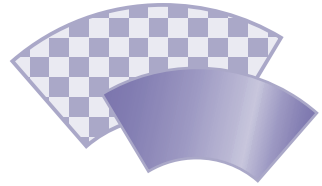
表紙写真・バラ

信仰の指針



ふ  
じん

不  
眞



怒  
ら  
な  
い  
こ  
と  
は

奇  
跡  
を  
も  
た  
ら  
し  
ま  
す

日  
教  
五

五



柳の新芽



# 朝のこない夜はない

山首 鈴木正修



# 心むとく

「一心万変に応ず」という言葉があります。この言葉は終戦の詔勅、かの玉音放送の起草に関わった安岡正篤さんの著書の中にある言葉です。安岡さんは「人間世界のことは色々さまざままで、いわゆる万変で際限がない。ことに人生の出来事というものは矛盾衝突が多く、なかなか思うようにいかないが、そういう時に一応自分の心ができておると、いかなる変化が生じても何とかやっていける。それが『一心万変に応ず』ということだ」と言われています。自分の心さえ整い、定まっていけば、また修養ができていけば、人生のどのような変化にも処していけるという意味です。



大事だいじが起こおこった時ときに心こころが整ととのっているか、日頃ひごろから修しゆ養ようができていいるかどうかというこことがわわかりまます。

「疾風しつぷうに勁草けいそうを知しる」といいう中ちゆう国こくの古ふるい言こと葉はが有ありまます。疾風しつぷうといいうのは激はげしく吹ふき荒あれる風かぜ。勁草けいそうは強つよい草くさです。激はげしい風かぜが吹ふき荒あれると、弱よわい草くさは倒たおれてししまい、初はじめてどどれが強つよい草くさかがわわかりまます。人にん間げんもそそれと同おなじで、平へい穩おん無ぶ事じの時ときは意い志しの強つよい人にん間げんも弱よわい人にん間げんも区く別べつがつきまませせん。厳きびしい試し練れんに遭あった時ときに初はじめて、その人ひとの意い志しや節せつ操そうの堅けん固こさがわわかるののです。

『論語』にも似にた言こと葉はが有ありまます。

「歳寒としふゆくして、松柏しょうはくの凋しほむに後おるるをを知しる」

寒さむい冬ふゆにななってほほかの木き々ぎの葉はは枯かれ落おちてしままつても、松まつや柏かしわだけだけは青あお々あわと葉はを茂しげらせていいる。人にん間げんも



これと同じように逆境の時になって初めて真価がわかる、ということ孔子も言っています。

『旧約聖書』の中に『ヨブ記』というものがあります。主人公のヨブはウツという地方の住民の中でも特に高潔で徳の人として有名でした。この人には美しい妻と7人の息子と3人の娘がいました。また莫大な財産を保持していました。即ち幸福の絶頂にあったのです。しかし、ある日ヨブは一日にして災害で財産をすべて失い、病気によって子ども達を全員亡くしてしまいました。さらに全身に悪性の腫物ができました。ヨブは一日にして絶望のどん底に落ちたのです。

この時に心が萎えてしまった妻が「もう神を呪って



死ぬ方がましです」と言う、ヨブは「お前まで愚かなことを言うのか。私達は神からたくさん幸福をいただいたのだから、不幸もいただこうではないか」と言いました。

『旧約聖書』には「このようになっても彼は唇をもつて罪を犯すことをしなかった」とあります。即ち愚痴や不足、泣き言をヨブは一切言わなかったのです。しかし、人生のどん底に落ちたのは確かです。この時にヨブの耳に神からの「さあヨブよ。お前は勇者のように腰に帯をして立ち上がれ」という励ましの言葉が聞こえたのです。これを聞いてヨブは真っ直ぐに立ち上がり、命は自分が創り出せるものではない。神の恵みである。その恵みを受けたものとして相応しく生き



ていくために、自分は真っ直ぐに立ち上がり、神を見つめて歩んでいくのだ」と決心したのです。

『旧約聖書』には「主はその後のヨブを以前にも増して祝福された。ヨブは、羊1万4千匹、ラクダ6千頭、牛1千くびき、雌ロバ1千頭を持つことになった」とあります。財産が以前の2倍になったのです。そしてヨブ夫婦はまた、7人の息子と3人の娘をもうけることができました。ヨブの娘達のように美しい娘は国中どこにもいないと言われました。さらにヨブは長寿を保ち、健やかに老いて死んだとあります。当時の寿命は百二十年と言われていました。ヨブは神に二十年余計に寿命をいただき、百四十年生きると言います。この話はヨブが、神を信じて何が起こっても堪忍して、





愚痴を言わず泣き言を言わずに信行したことによる功德の話だと私は思っています。

法音寺にもヨブのような方がおられます。福山支院の宮崎上人です。宮崎上人は堪忍強く、とても明るい方です。徳の人だと私は思っています。

宮崎上人は日本福祉大学に通われている時に結核に罹られました。それがきっかけで岡山支院の皿田妙恵法尼に導かれてこの御法の世界に入られました。宮崎上人は信仰に入られる前、姓名判断に凝っておられて、名前を三回変えられています。茂勝、益行、謹彰、そして現在の良祐です。お母さんが「益行。いやいや、今は謹彰だったね」と名前を呼ぶのに時々困っておら



れたそうです。

宮崎上人は高知のご出身です。高知には法音寺の高知布教所がありますが、高知市内のとても良い場所にあります。これは宮崎上人の寄進によるものです。宮崎上人の奥さまも非常に優しい菩薩のような方でした。この方が宮崎上人が64歳の時に突然の病いによって61歳で亡くなられました。あんな良い方がどうしてという思いをもったのを今でも思い出します。その後、お母さんが突然亡くなってショックを受けられたのでしよう。大学に通っていた息子さんが持病のアトピー性皮膚炎の悪化で普通の生活が送れなくなり、大学をやめて実家に帰ってこられました。その後引きこもりとなり、毎日大量にお酒を飲む生活になってしまいました



した。

宮崎上人には娘さんもいらっしやるのですが、娘さんは結婚されて神奈川県に行かれました。しかし、結婚五年目の時、娘さん夫婦が交通事故に遭ったという連絡が突然入りました。これは新聞に載るような大事故でした。朝、ご夫婦で近所に外出した際、信号待ちをしていたところ飲酒の暴走運転の車に轢かれてしまいました。さらに悪いことに無保険の車でした。ご主人はほぼ即死。娘さんは命は助かりましたが大変な怪我でした。片方の足が粉碎骨折、脊椎も損傷していたのです。

宮崎上人がすぐに駆けつけると、手術の時に医者さんから「足は切断するかもしれません。脊椎が損傷





よ」と言いました。すると「そうです。もう一度結婚して子どもが欲しいです」と答えられました。私は「だったら法音寺ではなく、お父さんは今、とても寂しい時だから、お父さんの近くで働かれたらどうですか。その方が功德になるし、出会いもあるかもしれませんよ」とアドバイスをしたのです。

その後、岡山県庁の任期付職員として働くことになりました。それからしばらくして宮崎上人がニコニコして「娘が結婚することになりました」と報告してくださいました。「それは良かったですね。ところでお相手はどういう方ですか」と尋ねると、弁護士さんでした。お付き合いをするようになって、すぐにプロポーズをされたそうです。ご主人の仕事の関係で今は神





戸におられます。一男一女に恵まれ、宮崎上人も可愛  
いお孫さんに相好を崩しておられます。

息子さんの方は田川支院の手嶋上人が福山支院に行  
かれた際に教化され、それから毎朝のように、手嶋上  
人と電話で話をするうちに引きこもりが解消されまし  
た。そして現在、信教師を志して5月の浄心道場に入  
行されることになりました。宮崎上人の、何が起こつ  
ても愚痴を言わない、泣き言を言わない、その堪忍の  
徳、それと宮崎上人の明るさによって今があるのでは  
ないかと思えます。

ヨブや宮崎上人ほどではなくとも、人生には色々な  
ことが起こります。辛いことや悲しいこと、ときに思



い  
が  
け  
な  
い  
試  
練  
が  
襲  
っ  
て  
く  
る  
こ  
と  
が  
あ  
り  
ま  
す  
。  
そ  
ん  
な  
時  
に  
も  
へ  
こ  
た  
れ  
ず  
、  
ぐ  
っ  
と  
耐  
え  
て  
、  
仏  
さ  
ま  
を  
信  
じ  
て  
、  
勇  
者  
の  
よ  
う  
に  
腰  
に  
帯  
を  
し  
て  
立  
ち  
上  
が  
り  
、  
お  
題  
目  
と  
三  
徳  
の  
実  
行  
に  
励  
み  
ま  
し  
よ  
う  
。



良い教えの話を聞きましょう。

全国の法音寺各支院・布教所では  
毎月の講日の中で

三徳の教えを聞くことができます。  
是非講日にご参詣いただき  
教えを心にしみ込ませましょう。

◆今月の山首上人さまご親修日程

開基堂	6月10日(土)	郡上八幡支院	6月18日(日)
豊川支院	6月20日(火)	安城支院	6月28日(水)

# 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

支院・布教所名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	3日・24日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田之城之崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	3日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	3日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	24日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825 ☎連絡は本山寺務局へ
佐屋支院	3日・10日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0567)32-1825
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0586)72-7208
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(0568)22-5813
岐阜支院	3日・14日・18日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)245-2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(058)388-2740
大垣支院	1日・21日	大垣市宝和町5	☎(0584)78-4854
関支院	3日・13日・24日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)22-0776
平賀支院	3日・18日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)23-3771
郡上八幡支院	8日・18日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(0575)65-3933
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(059)352-3633
上野支院	1日・21日	伊賀市上野向島町3-4-75	☎(0595)21-0127

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	4日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	10日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
和泉支院	22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(072)466-3112
神戸支院	10日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・24日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)421-0175
岡山支院	7日・18日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	4日・18日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	10日・25日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)621-5087
安芸津支院	3日・18日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)451-4012
坂支院	18日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	4日・15日・18日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1-1-2	☎(0920)441-5445
筑後布教所	25日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)531-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)581-0742
田川支院	18日・25日	田川市春日町7-30	☎(0947)421-1819
名古屋地区	7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・24日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)851-6860
亀岡布教所	12日・25日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)251-7807

※スケジュールは変更されることがあります。詳しくは各支院・布教所にお問い合わせください。(掲載順不同)



令和5年5月21日

6月4日・11日

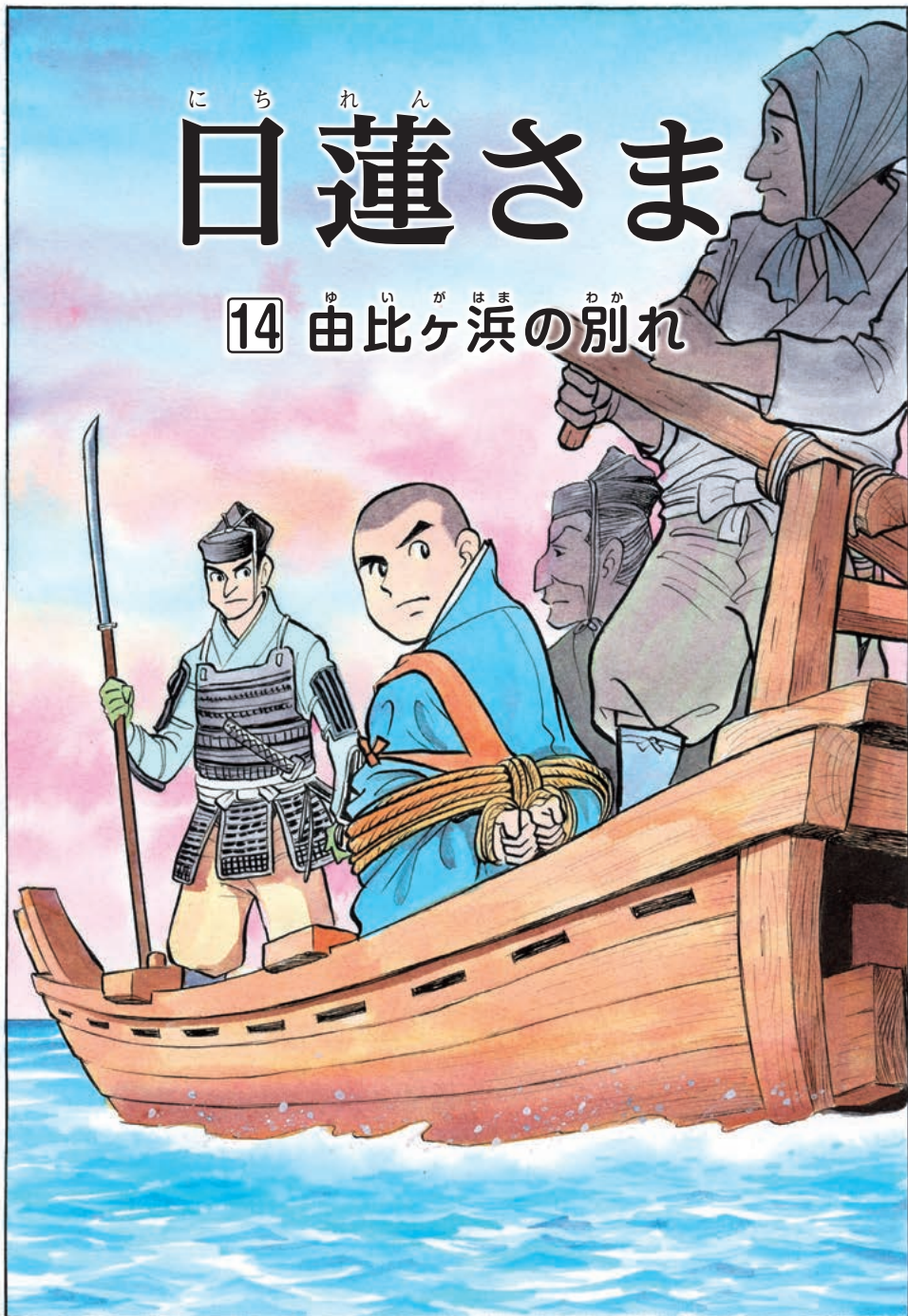
# 御開山会



大乘山 法音寺

に ち れ ん  
日蓮さま

14 ゆ い が は ま わ か  
由比ヶ浜の別れ







退け  
退け

じゃまだ



下から  
ぬか!

じゃまだ!!



おう  
来たぞ



身の程を  
知らぬからだ

悪口を言った  
んじゃあな

辻々で念仏宗の  
悪口を言った

時頼さまや  
重時さまに  
楯突いたんだ  
当然のことだ



まったく  
哀れな  
もんだ

いい気味じゃ

あのクソ坊主も  
とうとうお縄だ



お師匠さまが  
島流ししたと?

そつよ!  
それが  
どうした



今なんと  
言った!

伊豆の伊東へ  
島流しだ

どこへ  
送られるんだ



さりとて  
あまりに  
ひどい  
お仕打ち

一緒に  
ひつくられ  
たいか

おぬし お上に  
楯突く気が



罪もないお師匠さまを  
捕らえ流罪とは  
それで政道が  
立ち申すか



何もなさって  
ないのに…

お武家さま  
何とかならない  
でしょうか



お前は  
ヤツの  
弟子が  
生意気な  
坊主め



…

ええ お願  
い  
しますよ

お役人にお願  
い  
して 縄を解いて  
いただくわけには  
いかないのですか



退け  
退け  
じゃまだ  
じゃまだ



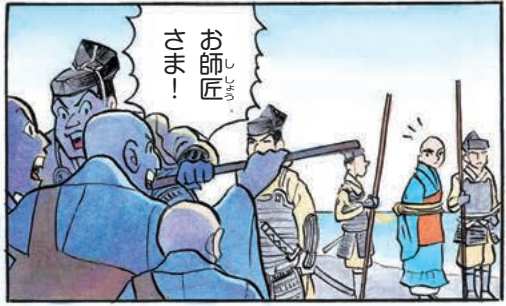
ああだがそれでは  
お上人がこれから  
ますますご法を  
弘められなく  
なってしまうだろう

我々もやむをえぬ  
場合には力つくても  
ここで  
役人を斬り  
お上人をお逃がし  
しようかと…









お師匠  
さま！

経文の通りだ  
今ようやく身に  
現れたのだ



刀杖瓦石は覚悟の上  
心配は無用だ



罪人にこれ以上  
近寄ると  
お前の命も  
ないぞ

お師匠さま  
たとえどのやうに  
迫害が厳しくとも  
妙法の灯は  
消しません  
この日昭お留守は  
まっとお守り  
いたします



頼みましたぞ

さあ舟に  
乗るのだ



お師匠  
さま…



畜生！

つう…  
無念だ













末法の世に法華経を弘めよと作るならば杖もて打たれあるいは遠く流罪となるべしと経文に書かれています

だとすれば法華流布もいつの日か必ず叶うであろう



お師匠さまあ



朝日が昇った折は鎌倉に日朗ありと思っているぞ月が西山に傾くのを見たら伊東に日蓮ありと思うがよい此の経は持ち難し若し暫くも持つ者は我即ち歓喜す



お師匠さまたてえ手をもがれ足を切るといわれよともお師匠さまの心を心として法華経流布を続けお帰りをお待ちいたします



南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経

つづく



## 由比ヶ浜の別れ

執権北条長時は、日蓮聖人を召し捕り、由比ヶ浜で船に乗せて伊豆の伊東へ流罪にします。知らせを聞いた日昭上人、日朗上人などが浜辺に駆けつけますが、どうすることもできません。日朗上人は船の綱に取りすがり、乗船させてほしいと叫びますが、船人が櫂を振り上げ、その手を打ち払います。日蓮聖人は船の上から日朗に、法華経を弘めようとすると迫害を受けることは経文に書かれる通りであると伝え、やがて赦免され、再会できる日まで体を大切にしようにと声をかけます。この時、日蓮聖人が唱えた宝塔偈が波により独特な節に聞こえたことでも独特のリズムで唱えるようになりました。

またこの地に日蓮聖人ご入滅後、正安元年（1299）日実上人が海潮山妙長寺を開山しました。その後、天和元年（1681）の津波により、材木座へ移設されました。境内には日蓮聖人伊豆法難を記す大相輪塔が建てられています。



海潮山妙長寺 鎌倉観光公式ガイドHPより



# お寺の本棚



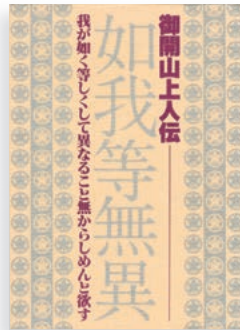
『御開山上人伝・如我等無異』

## 布教方法の伝統

どんな教えでも、どんな立派な教義でも、ひとりでのびまわって

いくことはない。それを心から信じ、導いていく人達がいなくてはならない。杉山先生の時代から三徳の教えを受け、それを実行して喜びを得た信徒の一人ひとりが、また縁ある人々に教えを伝えていくことは法音寺の伝統でもあった。

「法華経を信ずる皆さんや私達は、世の中の道に迷える人々の指導者です。先生であります。この自覚を心に念じ、信じて、お題目を唱えましょう。修行に努力しましょう。病氣や災難は必ず吹き飛んでしまいます。如来のお遣いとして、如来の仕事すなわち仏事をな





すのは皆さんや私です」(遺稿・明るい生活より)

マスコミのような派手さはなかったが、一人の者が一人を導く功德は大きな力となって着実に伸び、広がっていった。その説くところは、生活の中にある願いと不安を解き明かし、心を安らげるものであった。現世利益とは、まず自分の周りに喜びを見出し、やがては高い真理に向かわせるための方便なのである。

現在、法音寺は寺院ではあるが、(杉山先生時代からの)このよき伝統を受け継ぎ、僧侶だけが布教に携わるのではなく、信徒の一人ひとりが布教師であり、悩みを悟り、教えを説くところに布教の生命が息づいているのである。

※( )内は編者記

この本をもっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。



# 常寂光土への誘い (11)

無量義經 説法品第二

世尊、是の法門とは号を何等と字くる。其の義云何、菩薩云何が修行せん。

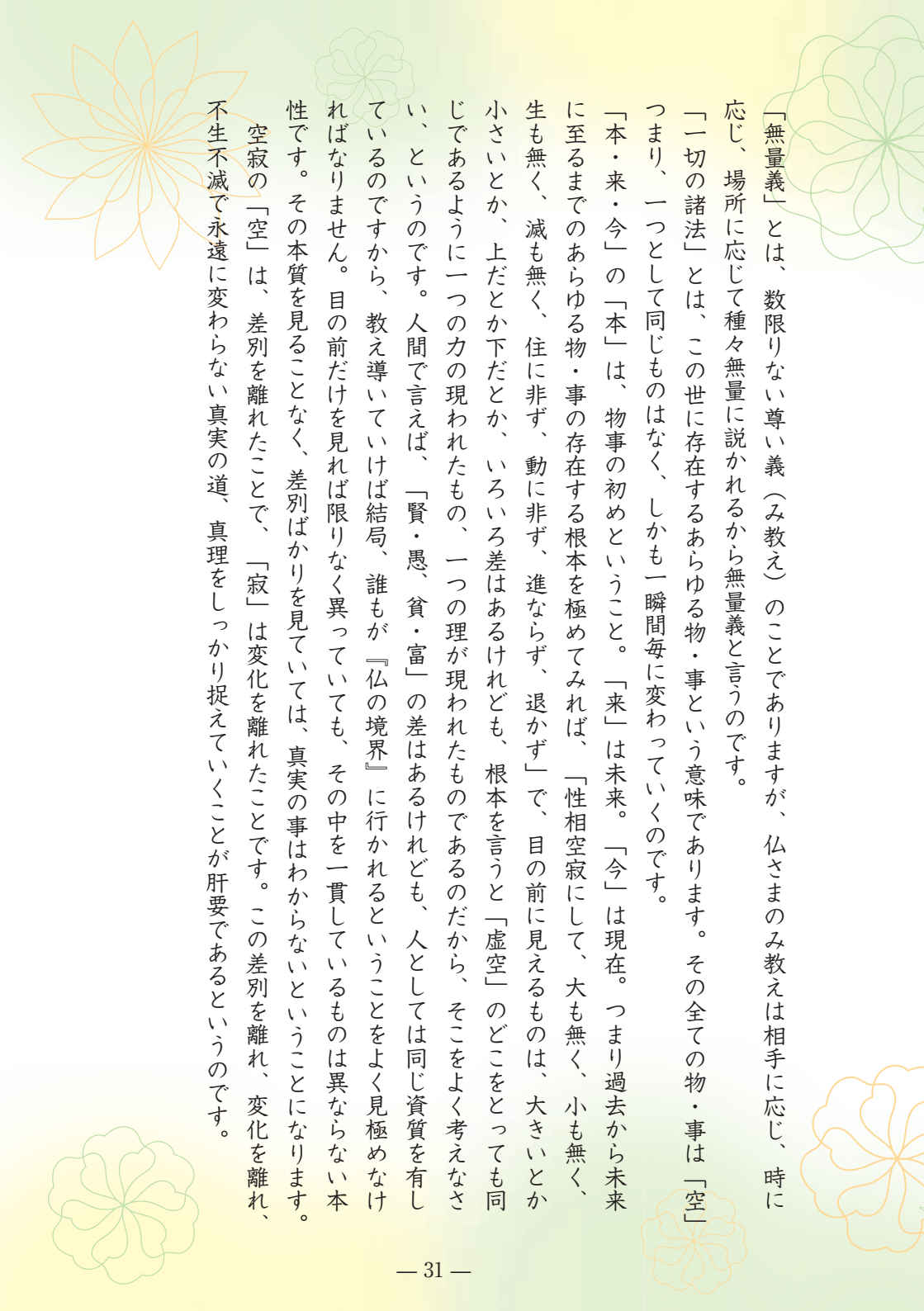
「世尊よ、その法門とはどのような教えでありましょうか。その内容はどんなもので、どのように実行したらよろしいでしょうか」と、大莊嚴菩薩がお尋ねしました。

仏教を修行するに当たっては、まず、その教えとはどんなものであるかを知ることが第一で、第二に、その解釈の方法を知り、第三に、実行の仕方を知る必要があります。そこでその方法をお尋ねしたのです。

仏の言わく、善男子、是の一の法門をば名けて無量義と為す。菩薩、無量義を修学することを得んと欲せば、应当に一切諸法は自ら本・来・今、性相空寂にして無大・無小・無生・無滅・非住・非動・不進・不退、猶お虚空の如く二法あることなしと觀察すべし。

仏さまはおっしゃいました。

「善男子よ、その一つの法門とは『無量義』という教えである。もし菩薩が無量義を修行しようと思えば、まさに一切の諸法をよく觀察しなければならぬ」。



「無量義」とは、数限りない尊い義（み教え）のことでありますが、仏さまのみ教えは相手に応じ、時に応じ、場所に応じて種々無量に説かれるから無量義と言うのです。

「一切の諸法」とは、この世に存在するあらゆる物・事という意味であります。その全ての物・事は「空」つまり、一つとして同じものではなく、しかも一瞬間毎に変わっていくのです。

「本・来・今」の「本」は、物事の初めということ。「来」は未来。「今」は現在。つまり過去から未来に至るまでのあらゆる物・事の存在する根本を極めてみれば、「性相空寂にして、大も無く、小も無く、生も無く、滅も無く、住に非ず、動に非ず、進ならず、退かず」で、目の前に見えるものは、大きいとか小さいとか、上だとか下だとか、いろいろ差はあるけれども、根本を言うと「虚空」のどこをとっても同じであるように一つの力の現われたもの、一つの理が現われたものだから、そこをよく考えなさい、ということです。人間で言えば、「賢・愚、貧・富」の差はあるけれども、人としては同じ資質を有しているのですから、教え導いていけば結局、誰もが『仏の境界』に行かれるということをよく見極めなければなりません。目の前だけを見れば限りなく異なっているもの、その中を一貫しているものは異ならない本性です。その本質を見ることなく、差別ばかりを見ていては、真実の事はわからないということになります。

空寂の「空」は、差別を離れたことで、「寂」は変化を離れたことです。この差別を離れ、変化を離れ、不生不滅で永遠に変わらない真実の道、真理をしっかりと捉えていくことが肝要であるということです。

而るに諸の衆生、虚妄に是は此是は彼、是は得是は失と横計して、不善の念を起し衆の悪業を造つて六趣に輪廻し、諸の苦毒を受けて、無量億劫自ら出ずること能わず。菩薩摩訶薩、是の如く諦かに観じて、憐愍の心を生じ大慈悲を発して將に救拔せんと欲し、又復深く一切の諸法に入れ。

「それなのに多くの人々はこの真理を知らず、目の前に現われた現象だけを見て『これは良い。これは良くない。これは得、これは損』などと勝手に計算をして不善の心を起し、さまざま悪業を造つて六趣（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六道）を輪廻し、いろいろな苦しみを受けるばかりで、いつまでたってもそこから抜け出ることができずにいる。菩薩の皆さん、このことをはっきり見定めて、憐愍の心を生じ、大慈悲を発して『この人々を救って上げたい』と決心してください。しかし、それ等の人々を救うには、本当に善い智慧がなくてはできるものではありません。大乘の教えを修行して、あらゆる物の真実を考えて見る事が大切なのですよ。」

「深く一切の諸法に入れ」とはこのことです。「人生というものは如何なるものか。天地万有はどのように存在し、どのように働いていくものかを充分に学び、智慧が明らかになった時に初めて、人を救う道が開かれていく」というように言われているのであります。



高祖 日蓮大聖人 第七百五十遠忌

始祖 廣宣院殿安立大法尼 第一百遠忌 御報恩

御開山 叡山院日進上人 第七十遠忌

五十萬卷 御報恩納経  
妙法蓮華経

久遠偈

大乘山 法音寺

書写經典 久遠偈（如来寿量品第十六）  
納経期間 令和4年1月1日より10年間  
納経供養金 1冊 2,000円



写経のまんが動画が  
ご覧になれます

※納経帳のお求めは本山事務所受付または所属まで

# やさしい仏教

お題目だいもく（南無妙法蓮華經なむみょうほうれんげきょう）とは

法華經一部八卷二十八品六万九千三百八十四文字の法華經をふるいに掛けて、最後に残った文字が妙法蓮華經です。

我々凡夫は、お経を全部唱えることも内容をすべて理解することも、容易ではありません。日蓮聖人は「法華經の功德がお題目に備わっている」とおっしゃっています。

## お題目の功德

### ①先祖供養

いつでもどんな場所でも、お題目を唱えて亡き人を「ご供養すれば、仏前で唱えることと同様に先祖の追善となり、先祖の霊はきつと喜ばれます。」



② 大難は小難に 小難は無難に

お題目を唱えようと、その功德は形となって現れ、大難は小難に、小難は無難となります。お題目を唱えていると、心が段々広くなっていきます。お題目を唱え、心を整えましょう。

③ 周囲の人の仏性の芽を出させる

お題目を唱えることは、慈悲・至誠・堪忍の心を受持することです。お題目を唱える人の姿を見て、周りの人が感化されていきます。それが「周囲の人の仏性の芽を出させる」ことになるのです。

④ 国土成仏

成仏は人間だけのものではありません。お題目を唱えることでこの世界のすべてが成仏できるので、例えば虫までもが回轉成仏し、世の中の役に立つものに生まれ変わることができるのです。この作用を国土成仏といいます。

⑤ 自身の仏性が育つ

お題目を唱えようと、良い智慧がでてきます。自分のできることで他の人を喜ばせ、徳を積むことができるようになっていきます。そうして自身の仏性が育っていくのです。



# 浄心道場

教務委員会

「行学の二道を励み候べし。行学絶えなば仏法はあるべからず、我も致し人をも教化候え。行学は信心より起ころべく候。力あらば一文一句なりとも語らせ給うべし」(日蓮聖人・諸法實相鈔)

5月3日(水)～5日(金)の3日間、浄心道場が開催されました。新型コロナウイルスの影響で、四年行うことができませんでした。特に5回の修行を終えて信教師となる方、3回の修行を終えて準教師となる方、入行許可を得ながらもようやく初めて入行する方にとつて、待ちに待った道場の開催です。未だコロナ禍から解放された訳ではないため開催方法もさまざまに考慮されました。

3・4・5回生は3日・4日、1・2回生は4日・5日の1泊2日で開催

する形となりましたが、道場生の表情には、やっと修行が行えることへの安堵と真剣さが表れていました。

声明・読経の練習では、さすがに4年の空白は大きな影響があり、指導にも熱が入ります。指導を受ける道場生の見逃すまい、聞きもらすまいと精進する姿は、見る者の心を打ち、また頼もしく見えました。

朝勤・夕勤の道場偈・奉送・太鼓は、入行4・5回目の道場生によって行われますが、4日の夕勤、5日の朝勤は1・2回生だけのため、役が与えられました。いずれも澁瀬と、力強く、厳かに勤められました。

入行の方々が今後一年の精進を誓い、同行の方との再会を約束しますと、本年の道場は無事終了しました。

【新信教師・7名】(敬称略)

下平 俊夫

齋藤 景子

柏本 妙子

横田 英次

新庄 常浩

江種 進

因幡 和敏

【新準教師・9名】

玉川 靖子

服部 育枝

谷田 久子

松波 千代子

野口 和良

森 一司

橋詰 優子

塩谷 信次

岡本 信子



## 山首上人さまご講義

「徳を積み重ねれば運命は変えることができる」というお話をします。

去年90歳で亡くなられた稲盛和夫さんは京セラやKDDIを創立され、また日本航空の再建を委嘱されるなど数々の功績を残され、「経営の神さま」と呼ばれています。日本航空を再上場に導かれる時など、無給で働くことを条件に引き受けられました。

私は稲盛さんの講演会に2回うかがったことがあります。その講演会で稲盛さんは人生で大切なものを二つ挙げられました。一つ目は「下真剣に一生懸命に毎日生きること」。二つ目は「利他の心、菩薩の心を持ってすべての縁ある人を幸せにすること」です。これを常に強く思うことが大事だと言われています。

また、運命についてもお話しされました。運命は宿命と立命の二つに分けられるということです。宿命は生まれ持ったもの。立命は自分の努力や徳積みによって築いていくもの。人生は宿命

を縦糸、徳積みによる立命を横糸として織り上げられる織物のようなものであると言われます。

安岡正篤さんの『立命の書「陰騭録」を読む』という本があります。『陰騭録』の陰は「ひそかに」という意味、陽は「さだめる」という意味です。天は人間の日々の善悪の行いをひそかに見ておられ、禍福の運命を定められるということなのです。

『陰騭録』は中国の明の時代に袁了凡が一人息子の天啓のために訓示として書き遺した、徳と罪、因果の二法について書かれた本です。天啓やその子孫が『陰騭録』を自分達だけのものにしておくのはもったいないと思い、中国全土に広まり、日本にも伝わって現代にまで続いています。

『陰騭録』の第一章は「立命の学」です。徳を積み重ねることによって運命が変わるという内容です。袁了凡の実体験が書かれています。

袁了凡は、科挙という試験に合格することを人生最大の目標としていまし

た。科挙は合格によってその後の人生が決まってしまうほど重要な試験でした。一番の人は総理大臣になり、二番の人は財務大臣になると決まっていたからです。

しかし、袁了凡の家庭は裕福ではありませんでした。お母さんがある時「科挙をあきらめて、生活のことを考えてほしい。うちは代々医者の家系だからお前も医者になつてくれ」と言いました。それを聞いた袁了凡は悩みました。たまたま近くのお寺でたまたま見

たら、そこに孔という旅の易者が現れました。そして「お前の将来のことを全部教えてやろう。私には何でもわかる」と言って、袁了凡人にしかわからないことまで話し出しました。「お前は今、医者になろうか迷っているな。やめなさい。来年科挙に受かるぞ」と言い、試験の合格順位まで予言しました。

袁了凡はこの言葉を信じて科挙の試験を受けることにしました。さらに将来のことも占ってもらうと、「何回目の試験は何番で受かり、何回目の試験

は何番になり、こういう地位につき、給料はこれだけもらえる。結婚はできるけれども子どもはできない。そして53歳で息を引き取る」と言われました。そして次の試験を受けたら、言われた通りの順位で合格し、その後もすべて言われた通りになったので、教えられた運命を完全に信じる運命論者になりました。

袁了凡はある時、雲谷禪師という高僧と出会い、一緒に座禪を組みました。その時、雲谷禪師は邪念の全くない袁了凡の姿に驚き、「君はどういう人だ。まだ年若く見えるのに心が少しも動かない。どんな修行をしてきたのだ」と尋ねました。

袁了凡は「私は修行などしていません。若い頃に易者に占ってもらい、自分の運命を教えられたのです。決まった道を歩むだけなので、心はまったく動かないのです」と答えました。それを聞いて禪師は「すばらしい人物かと思ったが、ただの凡夫だな」と言いました。どうして凡夫かというと、確かに易者

は宿命を言い当てているけれども、善い行いを積み重ねた人の人生まではわからない。その易者の言う通りに生きるのは、何もしない凡夫だということです。

袁了凡は「運命は変えられるのですか」と尋ねました。禪師は「運命は自分で作り、幸福は自分で築くものだ。お前がこれから善きことを行つて多くの徳を積むならば、必ずや運命は好転していくだろう」と言いました。さらに『功過格』という、日常のすべての行為を善と悪に分類し、それを点数にして自分の積んだ徳の量を確かめる書を授けました。

そして、「効果があることを絶対に疑つてはいけません。効果があると信じ切ることが大事だ」と言いました。その結果、易者には次の科挙の試験に三番で受かると言われていましたが、一番で受かりました。徳を積もうと決心して、徳を積み始めたばかりでしたが、すぐに効果が現れたのです。

袁了凡は奥さんと一緒に善い行いに励みました。すると、生まれなるとさ

れた男の子(天啓)を授かり、自らの寿命も伸ばすことができました。善行を積み重ねた結果、運命を変えることができたのです。

最後に、心を改めて修行が進み、徳ができてくると現れる兆候を五つ紹介します。

一つ目は、心が晴れやかになって、ゆつたりしてくる。

二つ目は、智慧がにわかにかけて頭の働きが機敏になり、人生の道理が一口气に飲み込めるようになる。

三つ目は、忙しい中でも自然に仕事がかどるようになる。

四つ目は、意趣遺恨に思っていた人に会つても、まったく怒りや嫌う気持ちがなくなり、逆に喜びに変わる。

五つ目は、夢の中で黒いものを吐いたり、先師先哲から教えを受けたり、虚空を飛び歩いたりする。神仏を莊嚴する天蓋を見る。

運命は徳を積むことによって変わるということを信じ切つて、三徳の修行をしてまいります。

# 法音寺は「**信仰**と**福祉**のお寺」です



困っている人達の助けになることで、  
法音寺には“**功德**”が積み重ねられています

(功德とは、「幸せを引きよせる種」です)

その功德が信仰を通して  
皆さんに授けられるのです



## **法音寺**による社会貢献

社会福祉法人昭徳会の運営を基に  
現在1,500名を超える人達のお世話をさせていただいています



**福祉のさまざまな分野を支え、  
利用者さんの幸福を実現します**



### 児童福祉施設

親と暮らせない約170名の子ども達の  
生活を支えています

### 保育園

毎日370名余りの園児達の  
成長を見守っています

### 障がい児・障がい者施設

300名を超える人々に  
日々希望を与えています

### 高齢者施設

600名ほどのお年寄りに  
寄り添っています



ひろば

福祉の



# 幸せのお手伝い

「友達を思いやる

心の温かさ、ふくらむ幸せ」

## 仲間とともに頑張って

8年前の4月。期待と不安の入り混じった表情を浮かべて年少組へ進級したMちゃん。その時、私は初めてMちゃんと出会いました。

Mちゃんは生まれつき身体的な特徴があり、走ったり、階段の上り下りなど、生活に必要な動作が難しく、身体をうまく動かせませんでした。また内向的で、友達と一緒に元気良く遊ぶというより一人でじっくり遊ぶ子でした。私は、身体をうまく動かせない彼女を見て、〃手を貸してあげなければ〃と保育者としての援助を意識して関わる

ことが多かったように思います。

Mちゃんは年長組へ進級すると、身体はもちろん、心もとても大きく成長していました。以前は一人で遊ぶことが多かった子が、友達と一緒にままごとをして遊ぶことに喜びを感じていました。

しかし、身体のバランスを取ったり、機敏に動かしたりすることはあまり得意ではなかったため、平均台や雲梯、鉄棒などは何度誘っても、積極的に遊ぶことはありませんでした。ある日、友達が逆上がりに挑戦していました。逆上がりができるなくても繰り返しチャレンジする友達の姿を見て、Mちゃんも「やってみたい！」と列に並んでくれ



ました。その日以来、身体を使った遊びにも果敢にチャレンジするようになりました。運動会でクラスの皆とリレーや組体操を披露する、と目標を立てて頑張っていました。しかし、運動会の一週間前、足を怪我してしまいました。Mちゃんは、ずっと春から頑張っていた鉄棒やリレーなどができないと悲しそうにしていました。当日も保護者

の方から「クラスの皆の迷惑にならない程度に参加させてください」とお話をいただいたので、私はMちゃんと相談して競技の参加を考えていました。そんな中、クラスの皆の間では「リレーに負けてもMちゃんと一緒にやりたい！組体操もやりたい！」という意見があがっていました。Mちゃんが頑張っていた姿を見ていて応援してくれたことと相手を思いやる優しい気持ちを感じて、とても感動したことを覚えています。保護者の方から

は「みんなと一緒に運動会に参加できたことをありがたく思います」とお言葉もいただき、保育者として子どもの育ちを間近で見られることの幸せを感じました。福祉という仕事は、幸せの種まきをして大きく成長する花のような仕事だと思いました。

光徳保育園 保育教諭 青野 ちひろ



## 高浜安立荘デイサービスセンターがテレビで紹介



写真提供・昭徳会

### 高浜安立荘デイサービスセンター ～進化系サービス「回想法」の取り組み～

4月上旬、高浜安立荘デイサービスセンターがテレビ取材を受けました。テレビ局の方が興味を持ってくださったのが、高浜安立荘で行っている「回想法」です。進化系サービスという名目で4月14日の『情報ライブ ミヤネ屋』にて、その様子が放送されました。

回想法は、自分が子ども頃など昔の体験を思い出し、周囲に伝え、共感することで脳の活性化を促し、認知症の進行を抑える効果があるとされています。実施方法としては、職員2名（進行役とサポート職員）と、利用者さん4人から5人で、昔の物品などを使用しながら話をします。

今回は「昔懐かしい遊び道具」についての話をしました。最初に進行役の職員が「このような物を持ってきたんですけど、皆さんご存じですか？」とおはじきを見せると、利用者さんが「おはじき!!」と、大きな







声で教えていただきました。そしてすぐに「これはね、こうやって遊ぶの」と遊び方まで教えていただきました。その後もお手玉で遊ばれる方や、あやとりをされている方もいらっしゃいました。

回想法に参加された利用者さんに、テレビ局の方が質問すると「昔は楽しかったね」「こういう話ができて若返るね」などと、緊張されることもなく返答されていました。

高浜安立荘には、昭和にタイムスリップしたような、昭和20年代の町並みを再現した空間があります。そこには、高浜市民の方々からの寄付していただいた、昔懐かしい物品が多く展示されており、誰でも自由にさわることが出来ます。実際に物品を手にとってふれることで、昔の記憶を鮮明に思い出すことができ、話が盛り上がります。

回想法の取り組みは、デイサービスだけでなく、併設されている特別養護老人ホームでも週に一回実施されており、利用者の皆さんが楽しんで参加されています。「今日はやらないの?」「昔話は楽しいから早くやりたい!」などと、待ちきれない利用者さんも多くいらっしゃいます。

回想法を行うことで、利用者さん同士が顔なじみの関係となり、新しい友達関係を築くことができます。そして、回想法終了後も参加者同士で話の続きをする様子が見られます。また、職員も今とは違う昔の日本の様子について、利用者さんから話を聞くことで、新しい知識を身につけることができ、コミュニケーションに生かすことができます。

高浜安立荘は、10年以上前から認知症予防の取り組みとして回想法を実践し、マスコミからも注目を集めている施設です。現在、回想法を一緒に行っていただけの職員を募集しています。ぜひ、高浜安立荘と一緒に回想法に参加してみませんか?

高浜安立荘デイサービスセンター 生活相談員兼介護員

國枝 ゆう

# 第40回開学記念式典を開催しました

～日本福祉大学～

4月25日（火）、美浜キャンパスにおいて第40回開学記念式典を開催（オンライン開催）しました。日本福祉大学は1953年に中部社会事業短期大学として名古屋市昭和区の杖中<sup>いりなか</sup>で誕生しましたが、大学のさらなる発展をめざした「長期計画概要（1973年発表）」に基づき、1983年に現在の美浜町に総合移転しました。美浜町への総合移転後、このことを『第二の開学』と位置づけ、以来、毎年春に本式典を開催しています。本年度は学園創立70周年、美浜に移転して40年という節目の年の開催となり、当日は大学教職員の参加はもとより、理事、評議員、学園顧問の皆さまにもご出席いただき、総勢170名が聴講しました。

式典は、理事長、学園長、付属高校校長、中央福祉専門学校校長の挨拶後、永年勤続表彰も行われ、15年、25年、30年勤務された29名の教職員が表彰されました。その後は今年



写真提供・日本福祉大学



度から新たに副学長や学部長等に就任した教員からの挨拶や、今年度入職した教職員の紹介が行われ、最後は原田学長からの挨拶という次第で進められました。

冒頭、理事長は、今年の学生募集結果の総括という視点から「中動態（能動態や能動性とは違った主体性の意味合いとして、無意識に行っている行為や状態を表す）の環境を作ること」と、「リーンスタート（事業を起こす際の方法論の一つで、第一歩の踏み出しに時間をかけずに迅速に事業を進める考え方）」という2つのキーワードを用いて挨拶しました。この数年間はコロナ禍において世界的にさまざまな制限がある中、本学においては教育の質保証をはじめ、学生募集も丁寧に行ってきたことは評価できる一方、不要不急の活動制限下において、社会のWell-being（幸せ）を実現するための創造的行動を

生み出そうとする文化が低迷してしまったことを挙げられ、今後はこういった点の改善も踏まえ「今年度は学園創立70周年事業が始まる好機であり、これまでの固定観念にとらわれず、決して受け身の姿勢でない、建学の精神に沿った価値ある事業を徹底して進めていきましょう！」と語りました。

学園長は、「不易流行（ふえぎりやうこう）時代が変わっても不変なものがある、変えてはいけないものがある。流行とは時とともに移り変わるもの、変えていかなければならないもの」という言葉を紹介されました。世の中は不易流行のバランスの上に成り立ち、変えるものと変えてはならないものをどう見極めるかが重要である。日本には200年以上も続く老舗企業が3000社もあり、この数は世界第1位（2位はドイツの1500社）で、これらの企業に共通して言えることは「創業当時から創業理念を大事にしていること」「社長から新入社員に至るまですべての社員が仕事に対する情熱を共有していること」の2つであるとのこと。これらを通じ、学園長からは「日本福祉大学は創立から70年の間、創業理念と言える

建学の精神『如我等無異』を大事にし、その時代のニーズに的確に 대응してきました。現在も教職員一丸となり、ひらがなの『ふくし』すなわちすべての人のふつうのくらしのしあわせの実現に向けて邁進されておられます。私は日本福祉大学の永続発展は間違いないものであると確信しそれを祈っております」と語られました。

最後に学長は、「私達にとって周年事業は我々が所属する組織のルーツを確認し、そのことを踏まえ、さらなる発展を考える非常に重要な機会であると思います。本学のルーツは言うまでもなく建学の精神であり、この建学の精神の実現のため、新たな学部や学科の設置をはじめとしたこれまでの大学発展だけでなく、さまざまな困難や課題に対しても諸先輩方が対応されてきました。このようなアイデンティティを我々も大切に育んでいきたいと思えます。本学は昔も今も丁寧な教育を行い、多くの卒業生を社会に輩出してきました。各方面で活躍する卒業生にとって、恥ずかしくない大学づくりをこれからも続けていくことが重要です」「学長就任後、さまざま

な機関に挨拶がうかがっているが地域社会での本学に対する期待や使命について考えさせられています。今後の創立80年、100周年に向けて大学・学園としての基礎的基盤を練り上げ、次の時代に向けての準備にしっかりと取り組んでいくことも周年の役割であると思います」「課題は山積してはいますが、教職員の皆さんとともに前向きに進んでいきたいと思えます」と語りました。

今年度は学園創立70周年ということで、周年事業の一環として教職員が大学の原点について学ぶ企画も準備しています。これらの取り組みを通じて多くの教職員や学生が大学のルーツを振り返り、これからの大学発展を我がこととして考える良き1年にしていきたいと思えます。



理事長・学長室 中村 友美

## 幸せの種まき

良い教えの話を聞いて  
慈悲・至誠・堪忍の行いをして  
良い種をまく生活をしましょう

せっかく生きているのだから  
喜んで生きましょう  
自分が生きることによつて  
他の人を力づけていきましよう

大乗山 法音寺

## 編集後記

今月号では「朝のこない夜はない」のご法話に加えて、浄心道場での山首上人さまのご法話を掲載させていただきました。(39頁) 袁了凡の『陰鸞録』は以前にも『法音』に掲載されてきたご法話ですが、私達はこのお話を単なる中国の昔の話ではなく、日々の生活に直接反映させる教訓として受け止めなければならぬと思います。山首上人さまはこのご法話を通して、「心のあり方、日々の振る舞いによって人生を変えられることができるですよ」という強いメッセージを私達に発信しておられるのです。

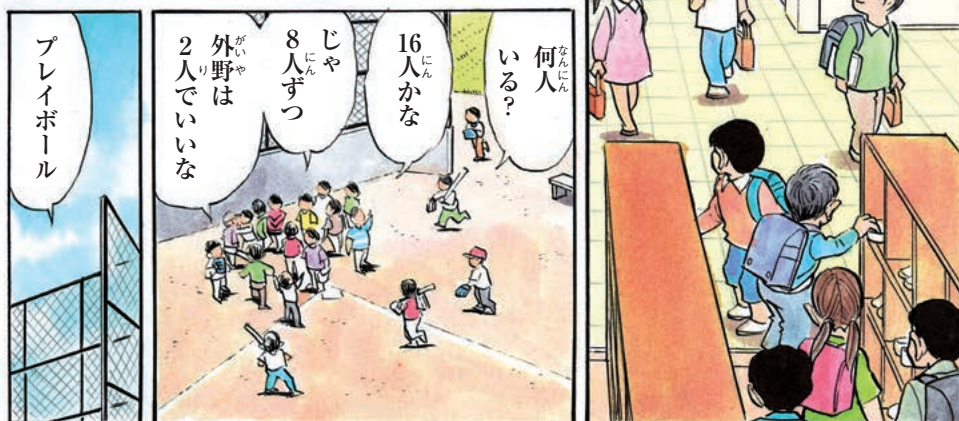
お寺には日々さまざまな悩みを抱えた方や、思いや願いを叶えたいと思う方が来られます。お寺に参詣する目的は一人ひとりそれぞれ自由です。しかし、より良い未来が招かれるようにと願う点では皆さん一緒です。そして、より良い未来を招くためには、今をどう生きるのかに目を向け、幸せを招く種をまく必要があります。良い教えの話を聞いて、日々それを実践することができる。そういう機会に恵まれている幸せに感謝したいと思います。





# 忘れかけてた届けもの

竹中 淳







ねえみんな  
いいだろっ

ダメだよ

そちのチーム1人  
おおくなっちゃう  
じゃないか

9人と8人  
じゃあな

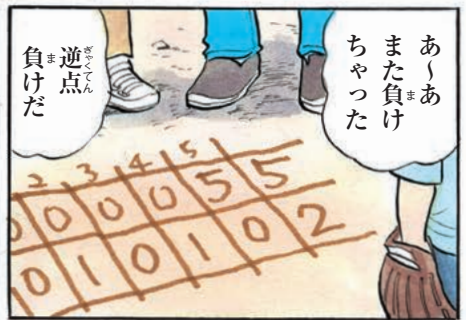
不公平だ

それじゃ この回の  
ボクの打席にこの子が  
代打ならいいよね

かつと  
ばせえ

帽子  
でかすぎや  
しないか









ボクは1年の時にね

おもちゃのバットとグローブを買ってもらってね



うれしくてよくここで遊んでたんだ



そうしたら上級生が通りがかかって

野球好きなんだね

うん

投げてやるから打ってみなよ



本当？



ホラッ



あっ



野球が初めてのボクにやさしく教えてくれたんだ

初めてバットにボールが当たった時はうれしかったあ



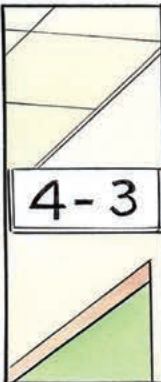
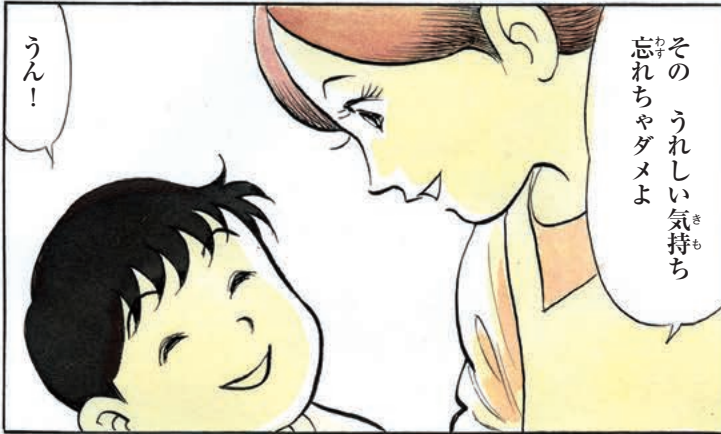
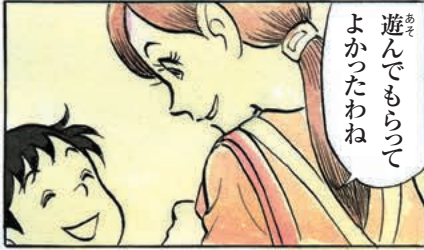
パッ

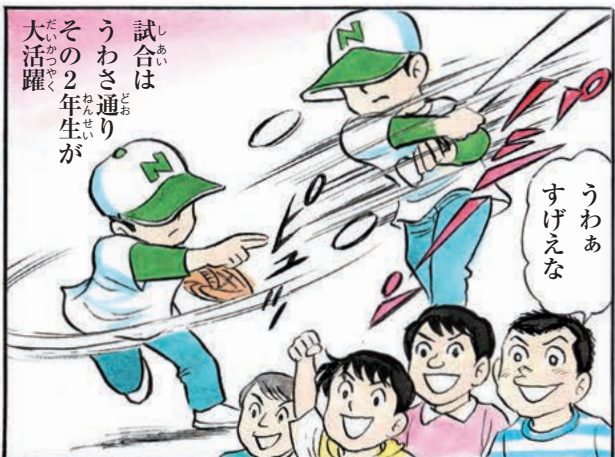


ボールをよく見ていくよ

それっ











あー  
あの時の  
1年坊主  
だろ！  
うそ？！

そういえば  
まだ名前も聞いて  
なかったよな

こいつ 2年かよ  
すっかりしてやがる

悔しかった日から  
一年 一生懸命  
練習しました

この一年で  
10センチ  
伸びました

なんなん  
何年も経って この子が  
今 ボクの所へ  
届けてくれたよ

蓮くん あの時の  
野球が初めての  
ボクを誘ってくれて  
ありがとう  
うれしかったよ

母さん 忘れかけてた  
あの時のうれしい気持ちを

おしまい

# 法音寺物語

社会福祉という言葉がなかった時代…  
人々を本当の幸せにする仏教の精神で  
社会的弱者を救済する人達がありました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、  
差別を受けたハンセン病を患った人々に  
寄り添い、様々な事情で親をなくした  
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に  
生きる希望を与えてきました。



お寺になったのは戦後(昭和22年)のこと。  
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を  
運営する中で、本当に人々を救済するには  
“専門的知識を身につけた人材が必要”と考え、  
日本初となる社会福祉教育専門の4年制大学・  
日本福祉大学を開設しました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を  
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に  
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。  
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、  
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、  
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。





# 勇猛精進

相手を満足させればすぐ喜びがくる  
相手をいたわれれば喜び合う日が必ずくる

写真・法音寺大本堂  
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

## 日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135  
https://www.houonji.com FAX.052-831-9801



講話日

毎月7日・17日・27日  
午後1時30分

ホームページにて月刊法音を掲載しています

### SNSでつながる法音寺

法音寺公式  
**facebook**で  
毎朝7時  
『一日一言』  
配信中!!

こちらの  
QRコードから  
ご覧いただけます。



毎週火曜日  
**法音寺メールマガジン**  
配信中!!

山首上人のみ教えや毎月の予定、  
人にやさしく生きていくための  
コツなどを配信します。

こちらのQRコードから  
メールマガジン登録フォームを  
ご覧いただけます。



**YouTube**にて  
**法音寺チャンネル**  
開設中!!

[https://www.youtube.com/  
user/houonjimovie](https://www.youtube.com/user/houonjimovie)

こちらのQRコードから  
法音寺紹介動画を  
ご覧いただけます。



詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺

検索

### 法音寺の社会福祉・教育事業

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

#### 社会福祉法人 昭徳会

- 児童養護施設
- 障がい児入所施設
- 障がい者支援施設
- 特別養護老人ホーム
- 障がい福祉サービス事業
- 養護老人ホーム
- 軽費老人ホーム
- 保育所
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム

法人本部

〒466-0832 愛知県名古屋市長和区駒方町4-10  
TEL (052) 831-5171  
<https://www.syoutokukai.or.jp>



我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

#### 学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

法人本部

〒470-3295  
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6  
TEL (0569) 87-2211  
<https://www.n-fukushi.ac.jp>



法音・令和5年6月号・No.644・令和5年6月1日発行  
発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会  
非売品／印刷・(株)一誠社